

公立大学法人和歌山県立医科大学

平成 3 0 事業年度の業務実績に関する評価結果

【素案】

和歌山県公立大学法人評価委員会

公立大学法人和歌山県立医科大学の平成30事業年度に関する業務実績の評価について

和歌山県公立大学法人評価委員会（以下「評価委員会」という。）は、地方独立行政法人法第78条の2第1項の規定により、公立大学法人和歌山県立医科大学（以下「法人」という。）の平成30年度業務実績に関する年度評価を実施した。

年度評価は、中期計画に基づき法人が作成した年度計画について、評価委員会が当該年度の実施状況の調査及び分析を行い業務実績全体について総合的に評定を行うものである。

今回の年度評価は、第3期中期目標期間の1年目の評価で、法人から提出された業務実績報告書及び法人に対するヒアリング等により、年度計画の実績及び法人の自己評価の妥当性を総合的に評価した。

評価委員会としては、今回の年度評価の結果が今後の法人及び大学運営に積極的に活用されることで、より一層、教育・研究・診療それぞれの活動が充実するとともに、法人の業務運営状況に対する県民の理解が深まることを期待する。

令和元年 月

和歌山県公立大学法人評価委員会

目 次

第1 全体評価

- 1 総 評
- 2 特色ある取組等

第2 項目別評価

- 1 教育研究等の質の向上
 - (1) 教 育
 - (2) 研 究
 - (3) 診 療
 - (4) 国際化

- 2 地域貢献
 - (1) 教 育
 - (2) 研 究
 - (3) 診 療
 - (4) 地域の活性化

- 3 業務運営の改善及び効率化
 - (1) 法人運営の強化
 - (2) 人事の適正化・人材育成等
 - (3) 事務等の効率化・合理化

- 4 財務内容の改善
 - (1) 財務内容の健全化
 - (2) 自己収入の増加
 - (3) 経費の抑制
 - (4) 資産の運用管理の改善

- 5 自己点検・評価及び情報提供
 - (1) 評価の充実
 - (2) 情報公開及び情報発信

- 6 その他業務運営
 - (1) 施設及び設備の整備・活用等
 - (2) 安全管理
 - (3) 法令・倫理等の遵守
 - (4) 基本的人権の尊重

第1 全体評価

1 総 評

和歌山県立医科大学は、県内唯一の医科大学として、本県の先端医療・地域医療を担うとともに、医育機関としての使命を負っており、より良い大学教育と地域医療を推進するため、多彩な取組を精力的に行っている。

平成30年度は、新たに地域貢献を大きな柱の一つとして位置付け、その取組をスタートさせた第3期中期計画の初年度であり、平成29年度及び第2期中期目標期間の業務実績評価結果を踏まえ、理事長・学長のリーダーシップのもと、全ての分野において職員全員が一丸となって取組み、着実な進展をみせたと認められる。

平成30年度計画158項目の業務実績を確認したところ、3項目が「年度計画を上回って実施している。」、145項目が「年度計画を十分に実施している。」と認められるが、10項目については、「年度計画を十分には実施していない。」と認められた。これらを総合的に勘案すると、第3期中期目標・中期計画の達成に向け、全体的には概ね順調に進んでいると評価する。

特に、以下の取組等について評価する。

【診療】

- 大学病院の経営課題等について議論する病院運営戦略会議を毎週開催した他、病床利用率向上や新規外来患者数増加などの課題に取り組むタスクフォース会議を立ち上げた。更に、経営委員会を開催し、収益増加・経費節減の取組を強化した。その結果、附属病院本院の業務損益が約6億円となり大幅な経営改善が図られた。
- 医薬品について、全国の大学病院等の購入実績を参考に価格交渉を実施するとともに、医療材料について、採用品目の切替・統一等に取り組む、約2億円の削減が図られた。一方、以下の点について一層の努力が求められる。

【教育】

- 医師国家試験の合格率については、93.9%と全国平均92.4%は上回っているものの、低下傾向にある。
- 大学院医学研究科について、論文発表数、国際学会発表数が年度計画の目標を下回った。

【研究】

- 競争的資金への教員応募率については、年度計画の目標を上回ったものの、一方で、競争的資金の獲得件数、獲得額については、年度計画の目標を下回った。

【診療】

- 入院・外来全体の査定率が前年度と比較して0.11ポイント改善しているものの、年度計画で目標とする0.7%に達しなかった。

【地域貢献】

- 共同研究が技術移転に結びつかず、年度計画の目標を達成できなかった。

2 特色ある取組等

【診療】

- 平成31年3月に臨床研究中核病院承認の本申請を行った。

- 平成 30 年 4 月にがんゲノム医療連携病院の指定を受け、平成 30 年 10 月からがん遺伝子検査外来を開設し、先端医療であるがんゲノム医療の提供を開始した。

【地域貢献】

- 医師不足状況にある県内公的病院に医師を配置し、診療及び若手医師の育成を支援するため、くろしお寄附講座を開設した。

第 2 項目別評価

評定の区分	<p>中期目標・中期計画の達成に向けて、</p> <p>S・・・特筆すべき進捗状況にある。</p> <p>A・・・順調に進んでいる。</p> <p>B・・・概ね順調に進んでいる。</p> <p>C・・・やや遅れている。</p> <p>D・・・重大な改善事項がある。</p>
-------	--

1 教育研究等の質の向上

(1) 教育

【評定】 B (概ね順調に進んでいる。) 自己評価

年度計画の記載 52 事項中 50 事項が「年度計画を十分に実施している。」と認められるが、2 事項について「年度計画を十分には実施していない。」と認められ、これらの状況を総合的に勘案したことによる。

【評価事項】

〈医学部、保健看護学部〉

- 高校の進路指導部長等を対象とする説明会や受験者に対するオープンキャンパスの開催、高校訪問を精力的に行い教育方針や県立医大の取組等の周知を行うなど、質の高い人材を獲得するための取組について評価する。
- 医学部と保健看護学部の合同講義として、患者や患者家族の会から直接話を聞き、両学部の学生が議論するケアマインド教育を実施していることについて評価する。
- 図書館の蔵書の充実が図られたことについて評価する。専門雑誌については、PubMed や医中誌などから文献印刷できる範囲を拡大するなどの効果的な取組についても検討されたい。

〈医学部〉

- 1 年次、2 年次に、福祉施設実習を通じた他職種への理解を深める教育を継続して実施していることについて評価する。教育効果の検証を通じ、内容の更なる充実を期待したい。
- 地域医療を支える専門職としてチーム医療の重要性を理解させるため、1 年次の早期体験実習や 4 年次の保健看護管理過程の実際を学ぶ統合実習など参加型実習を継続して実施していることについて評価する。
- 国際化に対応できる人材を育成するため、TOEFL を 4 年次への進級条件としていること、また、6 年次の選択制臨床実習において、海外実習を可能としていることについて評価する。

- 平成 29 年度に続き、平成 30 年度においても新卒者のほとんどが医師国家試験を受験していることについて評価する。
- 臨床実習期間を、これまでの 56 週間から 59 週間に延長し、実習の充実を図ったことについて評価する。
- 1、2 年生への担任教員の配置、各クラブへのメンター配置、学生部長に直接メールで相談できる相談ホットラインの設置、相談支援専門員の配置など支援体制の充実を図ることにより、留年者数が減少するなど確実に効果を上げていることについて評価する。

〈保健看護学部〉

- 入学者受入の方針（アドミッションポリシー）との整合性の確認を入学生の前期成績から実施する取組は、質の高い入学者の受入れにつながるものであり評価する。
- 医療人として資質の高い者を選抜するため、入学選抜試験の形態別に学生の成績について追跡調査を行い、その結果を踏まえ、入学後の成績に係わる要因解析を行うことで、入学試験の選抜方法について検証を行っていることについて評価する。
- 看護部継続教育について、保健看護学部教員がファシリテータとして参加し、新人看護職員臨床研修及び継続教育研修を実施していることについて評価する。
- 新卒者の看護師国家試験合格率が 100%であることについて評価する。

〈薬学部開設関係〉

- 令和 3 年度の薬学部開設を目指し、平成 30 年 4 月から教授選考を開始し、教授予定者 18 名の選考を終えるとともに、校舎の建設契約を締結するなど、ソフト・ハード両面から準備が着実に進めていることについて評価する。県内枠 15 名を有効に活用しながら、和歌山県の地域医療に貢献する実践的な薬剤師の育成を図るとともに、創薬に向けた研究志向の pharm D の育成と医学部・保健看護学部との真の医薬看連携に向けて着実に準備を進められたい。

【指摘事項】

〈医学部〉

- 医師国家試験の合格率については、93.9%と全国平均 92.4%は上回っているものの、低下傾向にあると認められる。他大学の取組等も参考にしながら、例えば、低学年から、暗記に頼らず内容を理解して学習する習慣をつけさせるための指導や、成績が下位の学生への修学支援、5 年生への進級チェックの厳格化など、合格率の向上に向け積極的に取り組まれない。

〈医学研究科〉

- 依然として入学定員の充足率が低い。教員の充実及び指導の強化を図るなど積極的な取組を期待したい。医学部生の大学院への入学を促すため、大学院準備課程への登録に取り組まれない。
- 論文発表数、国際学会発表数が年度計画の目標を下回った。国際学会発表における経済的支援や新たな奨励制度の検討など、発表数の増加に向け更なる取組を図られたい。
- 大学院における研究活動を推進するため、学外の最先端研究機関や他大学への短期国内留学に積極的に取り組まれない。
- 専門医志向の医師が増えていると思われる。大学院の魅力を積極的にアピールするとともに、キャリアパスのうえで課題と考えられる専門医取得と学位取得の両立を実現させるための方策を検討されたい。

- 大学院生が研究に割くことができる時間を、研究内容に応じ十分に確保することが必要である。診療の負担の程度等について実態を把握したうえで対策を講じられたい。

(2) 研究

【評定】C（やや遅れている。）自己評価

年度計画の記載 10 事項中 7 事項が「年度計画を十分に実施している。」と認められるが、3 事項について「年度計画を十分には実施していない。」と認められ、これらの状況を総合的に勘案したことによる。

【評価事項】

- 平成 30 年度の共同研究、受託研究の契約件数は 88 件であり、年度計画の目標の 66 件を上回ったことについて評価する。
- 臨床研究センターに臨床研究支援部門、臨床研究管理部門、監査室を新たに設置し、プロトコル作成、データマネジメント、統計解析等の研究支援を実施したほか、モニタリングや監査を通じた品質管理を行う体制を強化したことについて評価する。また、英文エディターにより英語論文の作成支援を実施したことについて評価する。
- PubMed に収録された論文数が、正規教員によるものが増加し、全体数としても昨年度を上回ることができたことについて評価する。
- 臨床研究セミナーの参加者が前年度と比較して増加していることについて評価する。

【指摘事項】

- 治験実施症例件数について、中期計画において毎年 10% 増を目標としているものの、平成 30 年度の企業治験症例件数が前年度と比較して減少している。製薬企業への治験パートナーシップの働きかけ、臨床研究ネットワーク (KiCSNetwork) の設置などの取組も認められるが、治験の受託実績を高めるよう様々な取組を継続して実施されたい。
- 臨床研究に積極的な教室が一部に偏っているように見受けられる。多くの教室で積極的な取組がなされるよう、全学をあげて取り組まれない。
- 競争的資金への教員応募率については、年度計画の目標を上回ったものの、一方で、競争的資金の獲得件数、獲得額については、目標を下回った。獲得実績については、経年的に見ても増加傾向は認められずかなり低調である。特に、AMED の研究費の獲得実績が少ないと認められる。比較的獲得しやすいと思われる若手研究者向けの研究費への積極的な応募を促す努力が必要である。一方で、大型研究費については、獲得実績のある研究者を積極的にリクルートするなどの方策も必要である。また、研究論文の発表実績が採択に大きな影響を与えることから、論文発表を推進し研究活動を活性化させる総合的な取組が求められる。

(3) 診療

【評定】B（概ね順調に進んでいる。）自己評価

年度計画の記載 30 事項中 28 事項が「年度計画を上回って実施している。」又は「年度計画を十分に実施している。」と認められるが、2 事項について「年度計画を十分には実施していない。」と認められ、これらの状況を総合的に勘案したことによる。

【評価事項】

〈附属病院本院〉

- 医療安全推進部において、入院患者の全死亡症例の分析を着実に実施していることについて評価する。
- 安全な医療を提供するため、リスクマネージャーやインфекションマネージャーの育成、医療安全体制強化のための必要な会議・研修会の開催など、病院全体で取り組んでいることについて評価する。特に、医療安全研修会については、99%以上の職員が参加していることについて評価する。
- 新生児ドクターカーを365日、24時間自主運行していること、昨年度と比較して搬送実績が増加していることについて評価する。
- 高齢者・認知症ケアサポートチームの設置は時機を得た取組であり評価する。今後、その実績、有効性の検証を通して更なる発展を期待したい。
- 和歌山市保健所、産科医療機関と連携し、産後1ヶ月検診における産後うつ病スクリーニングを実施するなど、産後うつ病に対する体制が整備されていることについて評価する。今後の対象地域の拡大を期待する。

〈紀北分院〉

- 整形外科手術件数、眼科手術件数が多く、また、脊椎ケア、眼科診療等において先進的医療に取り組むなど、紀北分院の役割について、選択と集中の方向性が見えてきたことについて評価する。

〈病院運営〉

- 平均在院日数の短縮により、入院診療単価が増加したことにより、入院診療稼働額が増加したことについて評価する。

【指摘事項】

〈附属病院本院〉

- 院内感染対策を推進するための体制と実績は充実してきていると認められるが、更なる体制の強化を図るため、専従の専門医師の配置を検討されたい。

〈紀北分院〉

- 総合診療医育成と地域医療研究を目的として地域包括ケア病床を開設し、総合診療等の地域医療に関心のある臨床研修医の教育に取り組まれているが、初期臨床研修医の受入数が少ない。

〈病院運営〉

- 入院・外来全体の査定率が、前年度と比較して0.11ポイント改善しているものの年度計画で目標とする0.7%に達しなかったことから一層の努力が求められる。平成30年度に立ち上げた査定率タスクフォースの提言を踏まえ、引き続き縮減に取り組まれない。
- 未収金の額が前年度を上回った。各種公費制度や高額療養費制度の活用促進、分割納付の促進及び回収困難に陥りそうな案件に対する弁護士への早期委託など、未収金の縮減に向けて一層の取組が求められる。
- 平成30年度の後発医薬品数量シェア75.7%については、改善の余地があると認められる。更なる使用促進に取り組まれない。

(4) 国際化

【評定】 A (順調に進んでいる。) 自己評価

年度計画の記載5事項すべてが「年度計画を十分に実施している。」と認められ、これらの状況を総合的に勘案したことによる。

【評価事項】

- 海外の大学との交流を、協定に基づき計画的に実施し、教員・学生の国際的な視野を広げたことについて評価する。また、協定校ではないタイのチュラロンコン大学から医師2名、チェンマイ大学から医師1名の研修を受け入れたことについて評価する。

2 地域貢献

(1) 教育

【評定】 A (順調に進んでいる。) 自己評価

年度計画の記載5事項すべてが「年度計画を十分に実施している。」と認められ、これらの状況を総合的に勘案したことによる。

【評価事項】

- 看護キャリア開発センターが看護部とともに開催した新人看護教員、2年目以上の看護職、看護補助者を対象にした研修会に、多くの者が参加したことについて評価する。今後も、若手看護職員の知識や実践力の向上につながるよう、内容を検討しながら実施されたい。
- 地域医療に貢献する人材を育成するため、指導医講習会を開催するなど、県内臨床研修病院における臨床研修医の指導体制を強化する取組について評価する。

【指摘事項】

- 新専門医制度における専攻医の採用充足率は、他の地方大学に比べ低くはないが、採用充足率が低い診療科にあっては専門医養成課程の魅力を高めることにより、専攻医の獲得に努められたい。

(2) 研究

【評定】 C (やや遅れている。) 自己評価

年度計画の記載5事項中4事項が「年度計画を十分に実施している。」と認められるが、1事項について「年度計画を十分には実施していない。」と認められ、これらの状況を総合的に勘案したことによる。

【指摘事項】

- 共同研究が技術移転に結びつかず、年度計画を達成できなかった。引き続き民間技術移転機関を活用するとともに発明評価や活用候補企業の探索に取り組むなど一層の努力が求められる。

(3) 診療

【評定】A（順調に進んでいる。）自己評価

年度計画の記載12事項すべてが「年度計画を十分に実施している。」と認められ、これらの状況を総合的に勘案したことによる。

【評価事項】

〈附属病院本院〉

- ドクターヘリによる救急患者の受入れにかかる取組について評価する。本県の地理的条件を踏まえ、この取組の更なる充実を期待したい。
- DMATの取組など基幹災害医療センターとしての役割を果たしていることについて評価する。また各種災害医療訓練に取り組み、職員の危機意識の向上を図っていることについて評価する。
- 遠隔医療支援システムを活用し、学内で開催されている講演等を配信することで、最新の医療情報を伝達するとともに、医療従事者の資質向上を図ったことについて評価する。
- 遠隔外来の実施実績が前年度と比較して大きく向上したことについて評価する。質の高い医療がどの地域でも受けられるよう更に発展することを期待する。実施診療科や相手先となる医療機関が限定的であると認められることから、今後、内科や外科などの診療科の参画にも期待したい。
- 総合診療についてより理解を深めるため、平成30年度から、地域医療枠医師と自治医科大学卒業医師との自主勉強会を月1回開催していることについて評価する。
- 出前授業の回数、受講者数が前年度と比較して増加したことについて評価する。

(4) 地域の活性化

【評定】A（順調に進んでいる。）自己評価

年度計画の記載4事項すべてが「年度計画を十分に実施している。」と認められ、これらの状況を総合的に勘案したことによる。

3 業務運営の改善及び効率化

(1) 法人運営の強化

【評定】A（順調に進んでいる。）自己評価

年度計画の記載2事項すべてが「年度計画を十分に実施している。」と認められ、これらの状況を総合的に勘案したことによる。

(2) 人事の適正化・人材育成等

【評定】A（順調に進んでいる。）自己評価

年度計画の記載6事項すべてが「年度計画を十分に実施している。」と認められ、これらの状況を総合的に勘案したことによる。

【評価事項】

- 経営改善計画に基づき教職員の定数管理が強化されたことについて評価する。一方で、将来の大学の発展を見据え必要と認められる場合には、教職員の定数管理を適正に行ったうえで、人材の配置を積極的に行われたい。
- 各職場へのヒアリングや、所属長会を通じた働きかけにより、年次有給休暇取得推進・時間外労働の縮減に努めたことについて評価する。
- 年次有給休暇取得日数については、平成30年度は8.1日と第3期中期計画の最終目標値である10日に近づきつつあることについて評価する。法令遵守のみならず業務の効率化・合理化の観点からも引き続き取得日数増に努められたい。

【指摘事項】

- 男性の育児休業取得率や離職率については、第3期中期計画の最終目標値と大きく乖離していることから、改善に向けて一層の努力が求められる。

(3) 事務等の効率化・合理化

【評定】 A (順調に進んでいる。) 自己評価

年度計画の記載2事項すべてが「年度計画を十分に実施している。」と認められ、これらの状況を総合的に勘案したことによる。

【評価事項】

- 大学が抱える喫緊の課題に対応するため、適宜、各課職員による組織横断型のプロジェクトチームを立ち上げ迅速に対応していることについて評価する。

4 財務内容の改善

(1) 財務内容の健全化

【評定】 A (順調に進んでいる。) 自己評価

年度計画の記載1事項が「年度計画を十分に実施している。」と認められ、これらの状況を総合的に勘案したことによる。

【評価事項】

- 経営改善計画に基づき人件費の抑制や、診療材料費の低減化など病院経営の改善に取り組んだ結果、当初計画を上回る経常黒字を確保したことについて評価する。今後、必要な人材確保に支障を来すことがないよう留意する一方で、働き方改革等に伴い見込まれる人件費の増加にも対処しつつ人件費の適正化に努め、引き続き収支バランスのとれた健全な法人経営に努められたい。

(2) 自己収入の増加

【評定】 C (やや遅れている。) 自己評価

年度計画の記載3事項中1事項が「年度計画を十分に実施している。」と認められるが、2事項について「年度計画を十分には実施していない。」と認められ、これらの状況を総合的に

勘案したことによる。

(3) 経費の抑制

【評定】 A (順調に進んでいる。) 自己評価

年度計画の記載3事項すべてが「年度計画を十分に実施している。」と認められ、これらの状況を総合的に勘案したことによる。

(4) 資産の運用管理の改善

【評定】 A (順調に進んでいる。) 自己評価

年度計画の記載2事項すべてが「年度計画を十分に実施している。」と認められ、これらの状況を総合的に勘案したことによる。

5 自己点検・評価及び情報提供

(1) 評価の充実

【評定】 A (順調に進んでいる。) 自己評価

年度計画の記載3事項すべてが「年度計画を十分に実施している。」と認められ、これらの状況を総合的に勘案したことによる。

【指摘事項】

- (公財)日本医療機能評価機構の病院機能評価の中間的な結果報告においてC評価とされた6項目については、基本的な事項であることから、細かな業務の点検・検証が不十分であることがうかがわれる。指摘された6項目について一定の改善が求められるとともに、業務全般についても、働き方改革も念頭に置きながら継続的に業務改善に取り組まれない。

(2) 情報公開及び情報発信

【評定】 A (順調に進んでいる。) 自己評価

年度計画の記載2事項すべてが「年度計画を十分に実施している。」と認められ、これらの状況を総合的に勘案したことによる。

【評価事項】

- 記者会見やテレビ・ラジオの出演回数が増加していること、また、ホームページの外国語化を進め、国内外への最新情報の発信に積極的に取り組んでいることについて評価する。

6 その他業務運営

(1) 施設及び設備の整備・活用等

【評定】 A (順調に進んでいる。) 自己評価

年度計画の記載4事項すべてが「年度計画を十分に実施している。」と認められ、これらの状況を総合的に勘案したことによる。

(2) 安全管理

【評定】 A (順調に進んでいる。) 自己評価

年度計画の記載4事項すべてが「年度計画を十分に実施している。」と認められ、これらの状況を総合的に勘案したことによる。

(3) 法令・倫理等の遵守

【評定】 A (順調に進んでいる。) 自己評価

年度計画の記載1事項が「年度計画を十分に実施している。」と認められ、これらの状況を総合的に勘案したことによる。

(4) 基本的人権の尊重

【評定】 A (順調に進んでいる。) 自己評価

年度計画の記載2事項すべてが「年度計画を上回って実施している。」又は「年度計画を十分に実施している。」と認められ、これらの状況を総合的に勘案したことによる。

【評価事項】

- 「医療と人権」をテーマに全職員を対象に実施した「全学人権・同和研修」について、所属長あてに未受講者への受講指導を依頼するなど、受講率の向上に努めた結果、99.8%の受講率となったことについて評価する。受講後のアンケート結果も優れていることから、今後この取組が継続して実施されることを期待する。

<資料>

○和歌山県公立大学法人評価委員会 委員名簿（敬称略） ◎印は委員長

氏 名	役 職 等
◎ 辻 省 次	国際医療福祉大学大学院・医学部教授 東京大学大学院医学系研究科分子神経学特任教授
川 渕 孝 一	東京医科歯科大学大学院医療経済学分野教授
坂 本 す が	東京医療保健大学副学長 公益社団法人日本看護協会前会長
瀬 戸 嗣 郎	静岡県立こども病院名誉院長・参与 市立岸和田市民病院顧問
谷 口 友 志	公益財団法人白浜医療福祉財団白浜はまゆう病院院長
西 野 仁 雄	名古屋市立大学名誉教授 名古屋市立大学元学長

○業務実績の評価に係る和歌山県公立大学法人評価委員会の開催状況

- ・第1回和歌山県公立大学法人評価委員会 令和元年7月9日開催
- ・第2回和歌山県公立大学法人評価委員会 令和元年8月6日開催

○大学収容定員等（平成31年4月1日現在）

	収容定員（人）	収容数（人）
医学部	600	618
保健看護学部	320	323
医学研究科	196	139
修士課程	28	21
博士課程	168	118
保健看護学研究科	33	44
博士前期課程	24	27
博士後期課程	9	17
助産学専攻科	10	9

○教職員数（平成31年4月1日現在）

総 数（人）	1,786
教員	394
事務職員	147
技術職員	7
現業職員	1
医療技術部門職員	317
看護部門職員	914
研究補助職員	6

（出典）令和元年度和歌山県立医科大学概要